

第12回御府内八十八ヶ所霊場巡り

第7日目(神宮外苑—上中里)

日時 平成27年9月30日(水)午前9時集合
集合場所 明治神宮絵画館前
主催 東京都ウォーキング協会
距離 18キロ 参加人員75名 参加費500円
スタート 午前9時20分 ゴール午後2時40分

状況 今日住宅修理費の支払いで遅れたため参加費は高野さんに依頼した。44番札所顕性寺前の公園で待った。9時40分には皆さんが到着した。先導する役員の方から話を聞く。44番札所顕性寺で昨年の拝礼でお賽銭箱がないことをクレームした人がいた。盗難のため常設していないと言うと盗られてもいいではないかお慈悲と思えばと言った言葉のやり取りがあり今後は88ヶ所霊場巡りのウォーカーの方には本堂を開けて頂けなくなったそうだ。話を聞いて変な理屈を言うウォーカーも悪いが本堂を締めて開けない寺側もいささか理にかなわないと思う。寺院は信者や檀家の寄進で成り立っている。この為税金も払っていない。もともと信者は檀家のためにすべて開放されているものである。しかし京都や鎌倉、奈良を含めて入場料を当たり前のように徴集することに疑義を感じる。寺寶はもともと寄進されたもので寺の私有財産の如く扱って訪れる観光客や旅行者から入館料金を取ることがおかしいと思う。外国旅行をして寺院、旧城、博物館など訪ねると大半は無料である。日本だけは恰も当然と入館料金を徴収するのはいささかおかしいと思う。勿論メンテナンスのためには費用を蓄財せねばならぬがそれならば寄進箱を置いて浄財を得ればよい。台湾の道教の寺巡りをしたがお賽銭箱などどこもない。本堂の片隅にプラスチックの箱があり寄進する人はそれぞれ自分の所得に合わせて寄進金を納入していた。我々外国観光客には案内するが寄進は要求されなかった。奈良、京都、鎌倉を訪ねる外国人には日本の奇妙な風習に驚くであろう。



慶應義塾大学病院



顕性寺本堂



四谷毘沙門天

顕性寺(44番札所)は真言宗豊山派の寺院で創設時期は慶長16年(1611)に牛込門外に創立され寛永13年(1636)に現在地に移転し

たらしい。寺院入口に文久2年(1862)の道標が見られる。ご本尊は大日如来像で寺寶の俎大師と共に安置されている。長さ1mの俎板に空海が阿弥陀如来を作ったと言われている。皆が来るまで時間があり周囲の寺院を訪ねた。すぐ近くに四谷毘沙門天の幟が見える。この毘沙門天はもともと江戸城内にあったが5代将軍綱吉の側室春麗院の発願で本寺に寄進された。この像は北向き毘沙門天像と呼ばれ、徳川家康が北に居る伊達正宗が謀反を起こさぬよう北方の守護神とした。以来江戸市民の崇敬を集め福運、財運のご利益があるとされ篤く信仰を集めた。この他萩原宗固の墓が本性寺にある。萩原は江戸時代の国学者であり、歌人として知られた人である。その隣には西応寺が在り榊原健吉の墓がある。江戸末期の健客家で男谷信友から直心流影流を継承し講武所の剣術師範や遊歩隊頭取を務めた人である。

顕性寺で皆と合流して寺町を歩く。

丁度この地区の交通安全日に当り両側の住居から人が顔を出していた。四谷警察署の署長が巡回に車で来ていた。この辺りは寺院の多い地域である。左に入り須賀神社の前から急な石段を降りる。四谷と言うからには谷であり起伏の多い土地である。再び坂を下り反対側の坂を上がる。

左側に**21番札所東福院**がある。寶珠山遍照殿東福院は新義真言宗の寺院である。空海の始めた真言宗には大きく分けて智積院を本山とする智山派、長谷寺を本山とする豊山派、根来寺を本山とする新義真言宗がある。東福院は元々天正3年(1574)に大沢孫右衛門尉の熱心な帰依によって麴町の創建されたのが始まりである、江戸時代に入り、江戸城の外濠構築に伴い半蔵門と麴町にあった寺院が四谷に移転させられた。この寺の境内には地蔵尊像がある。慶安2年(1649)に大沢孫右衛門に初孫が誕生し寄進された地蔵尊である。上がりきった坂を少し戻ると

18番札所愛染院に着く。

塙保己一と高松喜六の墓所である。塙保己一は埼玉県木野村(現在の深谷市見玉町木野)に生まれ幼くして肝臓に病み7歳で失明し江戸へ出て雨宮検校の下で学び音曲、鍼医術を修め国学、漢学、和歌、医学など幅広く学び和学講談所を開き多くの門人を養成した。34歳の時に【群書類従】の編纂を始め41年かけて完成させその後(続群書類従)を編纂し我が国の発行された書籍を編纂まとめた。この中の(令義解)を編纂により過去の女医の前例が世に出て、初めて埼玉県出身の萩野吟子の女医が誕生した。最後は総検校の地位までのぼり正4位の受勲を得ている。世界の誇れる偉大な人物である。

高松喜六は江戸浅草阿部川町の名主で元禄11年に甲州街道新宿に宿場

町を幕府に願い出て新宿場の名主となった人である。新宿誕生の功労者である。新宿は内藤屋敷（信州高遠藩藩主）の納める土地であり、内藤新宿が誕生した。



21番札所東福院



境内の観音菩薩像



18番愛染院入口



愛染院本堂

それにしても二つの墓は質素な墓であった。塙保己一の墓は深谷市児玉町にある。こちらは生誕家の前に立派な墓が出来ている。総検校の地位まで上った人であるが武士階級と異なり墓所を立派に作る風習はなかったのである。例えば紀伊国屋文左衛門の墓もなかったのを近代になって地元の人たちが墓所を作った。再び坂を下る。下の道を左に進むと

39番札所真成院に着く。テッキンコンクリの立派な寺である



39番札所真成院



83番札所蓮乗院



蓮乗院住職

真成院の境内には雨寶稻荷神社の幡が見える、中に入る。社務所も立派で商品も多々あり脱靴で本堂に上がる人もいる。檀家がいいのであろう。ここを出て坂を上るすぐに**83番札所蓮乗院**に着く。石段を上がると今回も住職が出迎えて頂く。前年は一同本堂に上がり読経をしたが今回は境内に立ったまま般若心経を上げた。先ほどの真成院は鉄筋8階建てのマンション風でここは高野山信徒寮にもなっている。これと殆ど隣に近い蓮乗院は元々この地区には江戸時代は伊賀町、甲賀町と呼ばれ服部半蔵の住む地域であった。この近くの西念寺には服部半蔵と松平信康の墓所がある。蓮乗院は創建天正年間（1573-91）と言われ開山は鏡規上人となる。住職に見送られ寺を出る。坂を上りきり新宿通りに入る。四谷駅前交差点を渡り外濠公園で休憩となる。時間は10時20分であった。休憩後は公園の中を突っ切り市ヶ谷のお濠端を歩く。大日本印刷（DNP）の地点から坂を上がる。四谷と市ヶ谷は谷の中にありいずれも坂を上らねばならない。靖国通りから坂を上がり住宅街の中を通り大久保通りへ出た。新宿区北町にある**22番札所南蔵院**に着く。



22 番南蔵院に参るウォーカー所



2 番札所南蔵院本堂



浄輪寺（日蓮宗）の関孝和の墓

南蔵院は江戸時代に千葉氏の一族正胤が元和元年早稲田の地に福生院を創建した。五代将軍綱吉の時代に延寶9年（1681）にこの地に移り南蔵院と称した。関東大震災、東京大空襲で2度焼失し再建された。徳川家の庇護を受け寺宝も素晴らしいものがあったが良く再建された寺院である。寺を出て大久保通りを歩く。牛込柳町の坂を下り右へ榎町目指して歩く。途中に浄輪寺があり江戸時代の数学の大家関孝和の墓所があった。関孝和は群馬県の生まれで幕府に仕え勘定吟味役や新納戸組頭など勤め高原吉弥に学び従来の天元術の算木を使う方法から未知数を文字で表し筆算に直して方程式を解く方法を発見した。これ以外にも数学の面で新しい方法を算出して和算を発展させた。関流算出の祖として弟子も多く養成した数学の天才である。墓は見たことあるが平凡な墓であるが武士階級に比べ墓がある事が社会的な評価が高い。その前を通り

31 番札所多聞院に着く。この辺から歩くのが遅く寺に着くと先頭は山から下りてくる有様である。



31 番札所多聞院



夏目漱石旧居跡



30 番札所放生寺

多聞院は照臨山吉祥寺多聞院と言う真言宗豊山派の寺院である。創建時期不明で覚裕上人が天正時代に法流開山したと伝わる。慶長12年には平河町から牛込外濠近くに移転し宝永12年（1635）には辨天町（現在地）へ移転した。

墓所には松井須磨子の墓や比翼塚、生田春月の詩碑、吉川湊一の墓所がある。吉川湊一は江戸後期に平家琵琶の奥義を窮め寛政6年（1794）には検校にまで昇進更に文政9年（1812）には全国の検校を統括する職検校の地位まで達した。平家琵琶では当代第一人者であった。寺へは急坂があり今回辞退した。外苑東通りを横切り夏目坂に向かう。途中に夏目漱石旧宅がある。入口に漱石像が建つ。昔は入口に猫像が椅子に座ってあったが消失したようだ。ここには夏目漱石記念館ができる。

漱石郎の左側に都営住宅があり今回立ち退きされ本格的に工事が始まる。夏目漱石は今再びブームであり朝日新聞には長編小説が連載されている。夏目坂を下る。馬場下町に着く。夏目漱石誕生の場所は石碑が建つのみで今は何もない。穴八幡神社を左に入ると**30番札所放生寺**に着く。ここも坂であるし今は生工事中で中には入れない。外から拝んだ。放生寺は江戸時代の初め寛政18年(1641)高田八幡(穴八幡神社)の造営に対し良昌上人が別当寺として建立した。造営のため山を切り開くと神穴が現れ穴八幡神社となった。丁度三代将軍家光に男子誕生の年でもあり徳川家の祈願寺として葵の紋の使用を許された、寺名の放生は山野池沼に鳥や魚を放って逃がすことを意味する。日頃の殺生に対して供養する意味である。ここを出て早稲田大学へ進む。大隈講堂前を通り久しぶりに母校を訪れた。今早稲田は狭い敷地の中に高層階のビルを作り大学規模の拡大を図っている。しかし相当な費用を要するのでOBにも寄付依頼が来るであろう。



穴八幡神社



早稲田大学大隈講堂



52番札所観音寺



甘泉園入口

大学を回ると**52番札所観音寺**に着く。2階の本堂へ上るが疲れて下で待った。この寺は大学の敷地の一部かと思われるくらい隣接している。私も4年間大学へ通ったが記憶にない寺院である。創建は江戸時代早期寛文13年[1673]賢榮和尚により開山と伝わる、たびたびの火災や無住職時代もあった。しかしこの辺の名主の福田家を中心に寄進を行い寺院を維持したようだ。大学創設以前からある寺院であった。ここで昼食となる、昼食は甘泉公園である。途中の蕎麦屋で10数人が食事をした。食後甘泉園に向かった。甘泉園はもともと徳川御三家の清水家の下屋敷であった。ここの庭園は大名庭園で回遊式の池がある。ここで湧き出る水がおいしく甘泉園と名称された。明治時代に入ると相馬子爵の邸宅となる。昭和3年には早稲田大学の施設となったが戦後東京都に売却され今は新宿区立公園となった。戦後の経営難で早稲田大学が手放したことで新宿区の公園となる。上の入り口には中山安兵衛の敵討ちの場所として記念碑が建っている。

午後は公園を出て鶴巻町(都電始発駅)を横切り面影橋を渡り神田川を越える。豊島区高田町に入った。道路の際に太田道灌の山吹の里石碑がある。



山吹の里石碑



29番札所南蔵院



38番札所金乗院

太田道灌の山吹の伝説はあちらこちらにある。埼玉県越生町にも山吹の里の記念公園がある。新宿公園中央公園には太田道灌と山吹をささげる少女の像があり、この地が山吹の里と称している。埼玉県越生町は太田道灌の父が隠居後余生を送った場所でありこれにかけて山吹伝説を作った。もともとの歌は後拾遺和歌集に出てくる和歌であり兼明親王の歌にかけて作られた和歌である。この地から一キロほど離れて新宿区には山吹町がある。このことから太田道灌伝説の山吹の里はこの地ではないかと推測される。この道をまっすぐ北へ進むと右側に29番札所南蔵院がある。いつ来ても人の気配のない寺院である。しかし歴史は古く相撲力士の墓が多い。片男波、花籠、音羽山と年寄名にその名が残る昔の相撲取りの墓があるようだ。ただ本堂は硬く閉ざされ石段への道は鉢植えの植物で飾られるが入口ジャバラモンて中には入れない。聞けば前に参観者の不心得ものが花を盗んだとかで閉鎖されてとか、5年も訪ねて一度も住職を始め人を見たことがない。寂しい感じの寺院となっている。この先に38番札所金乗院がある。こちらは山門から自由に出入りできるし目白不動尊として有名である。江戸時代は五色不動尊として多くの市民の信仰を得た。これも3代将軍家光の時代に大僧正天海の建言により江戸幕府五箇所の不動尊を選び天下泰平の祈願をさせたことから五色不動尊の名前が出てくる、最初のいわれは江戸初期に動坂に伊賀の赤目に由来する不動尊があった。これが家光の命令で赤目不動尊となった。五不動尊とは目黒不動尊＝滝泉寺、目白不動尊＝金乗院、目赤不動尊＝南谷寺、目青不動尊＝教学院(太子堂)、目黄不動尊＝永久寺(三ノ輪)、最勝寺[平井]に存在している。この5不動尊はウォーキングですべて拝見した。いずれも本堂の脇に不動堂を作り鎮座していた。それぞれ不動尊の目は5色になっている。しかし



第54札所新長谷寺(目白不動尊)



第35番札所 根生院



87番札所 護国寺

実態は暗くてはっきり見えない不動尊が多い。 金乗院の境内には

54番札所新長谷寺(目白不動尊)が山門に入った右側の一段高い所にある。元はこの地から1キロ離れた高台にあったが戦災で焼失してこの寺に移築された。金乗院も戦災で寺寶はすべて焼失した。ここには丸橋忠弥(槍の名人)の墓がある。4代将軍家綱の時代に謀反を起こし処刑された人物である。 金乗院から200m左に入ると**第35番札所根生院**

(こんじょういん)がある。寛永年間に三代将軍家光の庇護を得て大和長谷寺の栄誉法師を江戸に招き神田白壁町にこの寺を創建した。その後真言宗関東三十ヶ寺の触頭となり将軍の命によって住職が選ばれる寺格が得られ将軍家祈願寺となった。その後何回も移転され明治に入り徳川田安家の敷地であった現在の場所に移転した。ここを出て、目白通りの坂を上がる。この辺も坂の多い地区である。あえぎあえぎ登りきる。交差点を渡り不忍池通りへ入りこの坂を下ると**第87番札所護国寺**に着いた。坂の上り下りで大分先頭とは離れた。山門を通ると右手に休憩用の椅子が並んでいる。護国寺は更に石段で上へあがるが疲れて数十名の仲間とここで待った。若くて元気の良い信心深いウォーカーは元気よく参拝していた。 待っている間に境内を見る。富士塚もここにはある。

民謡石碑



護国寺の石段



護国寺の民謡石碑



護国寺カラスの赤ちゃん石碑

が見える。カラスの赤ちゃんの歌碑もある。カラスの赤ちゃんは海沼実氏が作詞作曲をした。この人は音羽ゆりかご会を作りこの合唱団が一時期大活躍をして川田正子孝子など著名な童謡歌手を育てた。この裏側の小高い所に富士塚があった。護国寺には宮家関係者の墓所がある。更に山形有朋、大隅重信、三条実美らの墓所もある。もともとは5代将軍綱吉の実母の桂昌院の発願で上野国大聖護国寺の亮賢僧正を招き開山し創建された祈願寺である。境内は2万5千坪を有しており300年の歴史が眠る寺院である。護国寺を出て再び坂を上る。南大塚通りを下り大塚駅右ガードードを通り抜け右は入ると大塚公園があり少々休憩した。公園の前が立正佼成会の建物が見える。創価学会、幸福の科学、真如苑、立正佼成会と戦後の宗教法人はすべて成長が著しい。悩める若い人々が多く信仰の道に入る人は絶えない。そしていずれもどんどん大きく発展している。宗教は寄進で成り立つが全財産を寄付して救いを求める人が

意外と多いのであろう。休憩後立正佼成会の前を通り山手線に沿って巣鴨駅へと向かった。しばらく歩くと33番札所真性院に着いた。横から中に入る。江戸六地蔵が目の前に鎮座している。



護国寺の富士塚



33番札所真性寺六地蔵



33番札所真性寺本堂

六地蔵とは江戸深川の地蔵坊正元が宝永3年〔1706〕に発願し江戸市民から広く寄付金を集め江戸の入り口6ヶ所に丈六の地蔵菩薩坐像を造立させた。これは京都の六地蔵に倣ったものである。1番目品川寺（真言宗醍醐派）旧東海道1706年、2番目東禅寺〔曹洞宗〕奥州街道1710年、3番目太宗寺〔浄土宗〕甲州街道1712年、4番目真性寺（真言宗豊山派）旧中山道、5番目靈巖寺〔浄土宗〕水戸街道1717年、6番目永代寺（高野山真言宗）千葉街道1720年

6番目永代寺は明治の初め神仏分離令に良い廃寺となり大仏は上野にある浄名

院に代佛として安置されている。永代寺はその後深川不動尊入口に明治末年に再建された。六地蔵は病氣治癒を念願して建立されたものでどの台座にも寄進者名がすべて刻まれている。六地蔵は江戸市民の浄財で出来た産物である。

真性寺には芭蕉と杉風の句碑が残る。芭蕉句は（白露もこぼれぬ萩のうねりかな）



真性寺の芭蕉と嵐雪の句碑



巣鴨の塩地蔵



第59番札所無量寺

杉風句は〔萩植えてひとり見習う山路かな〕これは1792年造られた句碑であった。真性寺を出る。前の通りは巣鴨のお地蔵さん通りで人混むが激しい。歩道橋渡る手前に最近塩地蔵が出来ている。だるまのどとき塩で固まり顔さえ見えない。地元商店街で建立したようだ。歩道橋を渡り中山道を反対側に入る。直ぐに創価学会の異常に大きい会館が目に入る。創価学会は会員に寄付する月を決めており各支部単位に莫大な寄付金が集められ次々と文化会館が出来て行く。その規模は年々大きく

なっていくには驚く。この前を通り染井よしの桜の泉公園へ入り通り抜けた。染井桜通りに入った。児童館の横を通り古河庭園の裏側を歩く。坂の上り下りありきつい。この道の突き当りが**第59番札所無量寺**である。いつも閉門されて中は入れない。今日は山門が開いていた。一同中に入ったが次の門から先は立ち入り禁止である。無量寺の創設時期は不明である。ただ仏像と板碑から平安末期から鎌倉にかけて創建されたようだ。しかし境内は静かな雰囲気の花の多い禅寺のような雰囲気のある境内であった。しかし中には入れないが今日だけは珍しく開放された。



59番札所無量寺第2門これより立ち入り禁止



第47番札所城官寺入口



第47番札所城官寺での般若心経誦経

無量寺を出て本郷通りへ出る。ここを横切り平塚神社を左に見て右に入ると**第47番札所城官寺**に着いた。ここが本日のゴールである。少々疲れた。入口に多紀一族の墓の文字が目につく。多紀氏は医家であった。渡来系氏族であり、多紀氏にはいろいろな系統があった。一つは丹波康頼を始めとする丹波氏に行きつく家柄、もう一つは豊後国の豪族大蔵氏の庶家である。江戸時代には徳川幕府に代々仕え徳川家康の奥医師として初代家康から15代慶喜まで將軍家の近習となり、僧位を持ち法眼、法印の位を授けられた。江戸末期には江戸幕府の医学校である医学館総統を勤めた。主に内科を担当した。幕末になると西洋医学が輸入され外科の桂川氏も奥医師となり共に両雄と称せられた。ただ桂川氏は江戸時代末期の奥医師であり、多紀氏は家康以来の奥医師のため地位、名も格が上であった。

城官寺は寛永十一年まで浄土宗の寺院（安楽寺）であったが檢校山川城官によって真言宗に改宗させられた。三代將軍家光の命により平塚山安楽院城官寺と改め寺領として五十石、山川城官には知行地二百石が与えられた。

ここで本日の寺巡りは終る。午後3時半であった。上中里駅まで坂を下り田端駅で乗り換え帰宅した